
雲へ

R A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雲へ

【コード】

N6052E

【作者名】

RA

【あらすじ】

彼女にとっては初恋。少しでも希望があるなら。笑って分かれたい。

いつもは疲れて11時には寝てしまつ。
けど、今は違つ。

眠れず、呼吸困難。

なんでこんなことになってしまったんだろう。

先日君が変にえらく強く抱きしめてきてずっと体を離さなかったのをまだ覚えてる。

今考えると君はこれが最後なんだと感じていたんだろうか。

君のことが心の底から好きだと言つことに本当に気付いたときにはもう遅かつた。

今まで君が好きでいてくれてるって思ってたから自分勝手に生きてきて君を振り回した。

君は俺に振り回されながらも1人で頑張つた。

俺は何かしら言い訳をしてそこからとにかく逃げた。

君は何も喋ってくれなかつた。

でもそれは俺自身があまりにも自分のことしか考えて無かつたから。

君のことを理解しようとして話そうとして色々な方法を試してみたけど

方法が悪いとかそんなものではなくて、俺が駄目だつた。

ずっと孤独にさせてしまった。

きつと君は寂しかった。

けど君は素直に言えなかった。
僕はそれに気付いてて気付いてなかった。

俺との付き合いは君の人生をめちゃくちゃに振り回した。
きつと君は疲れた。

もう俺のことを迷惑な存在だとしか考えれないのかもしれない。

それを考えただけでも息ができない。

君が1人でずっと苦しんできたと考えるだけでもう無理。

君が他の誰かに抱きしめられてるところを想像するだけで吐きそうになる。

なんでその抱きしめる相手が俺じゃ駄目なのかって。

君が昨日別れ話を持ちかけてきたとき。

俺は本当に胸が引き裂かれそうになった。

どうしても君と別れなくなかった。

俺はそんなにすぐに別れられるような気持ちの切り替えが早い人間ではなかった。

なんとか繋ぎとめておきたかった。

君のことが世界で一番誰よりも本当に好きだ。
でも結果的に別れるのは分かってる。

それでも君がまだ僕とкаろうじて繋がって距離を置いて心を休めて
君が仮に帰ってくれたとき、君が少しの間でも幸せを感じてくれる
人間になって待ってる。

俺は全力で自分のことをこなしながら君の帰りを待ちたい。

もし七夕様がいるならまた楽しく二人でつき合わせてもらえませんか。

そして

仮に彼女が俺を選んでくれたとして、その時は自分に彼女を幸せにするための力をください。

仮に彼女が俺の手を離れたとしても、その時また別の誰かと幸せになりますように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6052e/>

雲へ

2010年11月27日06時01分発行